

# 秋葉原と私の思い出

J A 1 W O B 齋藤 章

CQ 誌に秋葉原に関する連載記事があり、私も思い出の秋葉原を書いてみたくなりました。

私の秋葉原デビューは、アマチュア無線に目覚めた頃の高校一年生(1964)になります。

小中学生の頃はプモデルや鉄道模型が趣味だったので、交通博物館には何時か行った事は有りましたが、秋葉原の電気街には踏み込んだ事は有りませんでした。

後に万世橋近くのラジオガーデンのジャンク屋に行った時に、交通博物館は秋葉原に近い事を知りました。

アマチュア無線に目覚め、SWL を始めるにあたり、受信機の製作をする事になり、まずは「初歩のラジオ」や「模型とラジオ」などの雑誌を読み漁り、初めて作ったラジオがゲルマニュームラジオ(1N60)でした。

ベニヤ板にアンテナコイルと 430p のバリコンを付けた簡単なものでしたが長いアンテナ線を付けていたので良く聞こえました。

やがて、本格的に SWL を始めるに当たり、道具揃えからはじめました。

半田ごては模型工作に必要なだったので持っていました。

受信機を作る為には、アルミのシャーシに穴を空けてトランスや真空管などを取り付けるにはハンドドリル、ドリルの歯、リーマ、ヤスリ、シャーシパンチなどが必要なので、少ない小遣いを工面して、最初に購入しました。

秋葉原駅近くのラジオストアの入り口にある工具屋さんだったと思います。

シャーシやアルミパネルはラジオストアの鈴蘭堂で購入しました。

テスターも必要だったのですが、予算不足で夏休みのアルバイト後にやっとラジオストアの測定器屋さんで日置のテスターを買いました。

このテスターは 60 年を経過した今でも使用可能です。

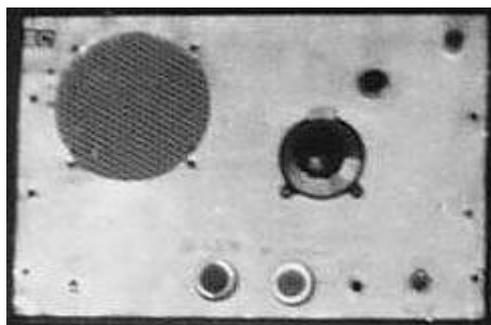


初歩のラジオにある、実態配線図付きの製作記事を眺めながら、理屈も分らず思いを巡らして、0-V-1 が良いか 1-V-2 が良いかと擦り切れるまで、初歩のラジオの製作記事を読みました。

友人の奨めもあり、家にあった役目を終えた ST 管の 5 球スーパーを短波受信機

に改造する事になり、トリオの短波コイル（青箱）を町田にある、部品を販売している、電気屋に行って、「短波コイルが欲しい」と告げると、「中波と短波が聞ける方が良いよ」と言われて、短波コイルとバンド切り替用のロータリースイッチを購入する事になりました。

早速、ST 管の5球スーパーを木箱から取り出して、全面にアルミパネルを付けて、バリコンにはバーニャーダイヤルを付けて、外観はラジオから受信機らしくなったのですが、バンドの切替をロータリースイッチで行う事は、初心者にとってはハードルが高くなかなか、7MCのアマチア無線を受信する事は難しく、スーパーローカルのCWのCQは聞こえるけれど、学校のクラブや友人宅で聞いた、受信機のように7MCのAMが聞こえる事は在りませんでした。



今にして思えば、ロータリースイッチの切り替えとスーパーヘテロダインの事を良く理解していなかったため、短波の局部発信が動作していなかったと思われれます。

暫くしてから、中波の5球スーパーを最初から配線して作る事になり、その時には一発で成功してラジオが聞こえました。

そんな事があり、夏休みのアルバイトで貯めた資金で当時のベストセラー受信機の「9R59のキット」を購入する為に秋葉原へ友人と出かけました。

ラジオストアの中にあった、店で「9R59のキット」の値切り交渉は成立せず高1中2+Qマルチの9R59から、高1中1+BF0のスペックダウンの「JR200」を購入する事になりました。

それでも、帰りの交通費が無くなり、恵比寿にいた叔母にヘルプしました。

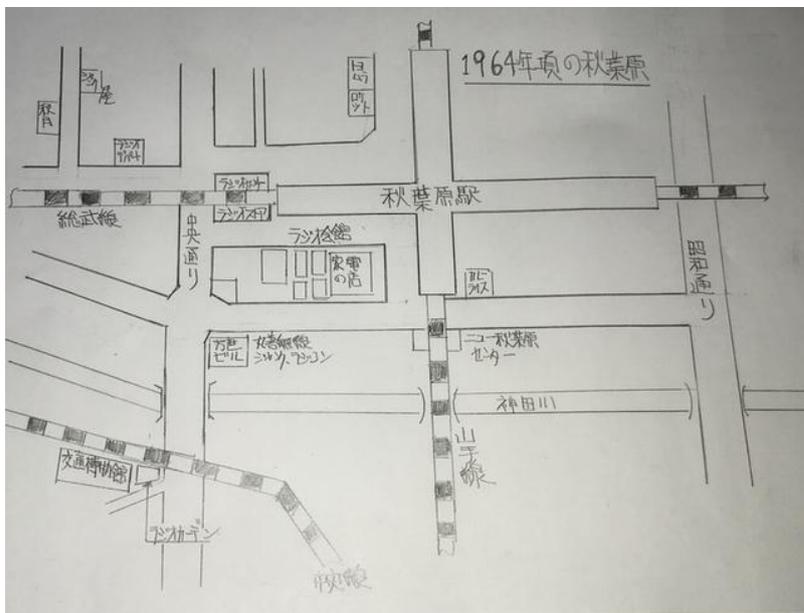
JR200のキットは2～3日で配線は終わりましたが、真空管が全て揃ってなくて、暫くは横行ダイヤルに明かりを付けて眺めていました。

全ての真空管が揃い、SPから7MCのAMの混信が聞えた時は今でも忘れられません。そして今でも9R59は憧れです。

徐々に真空管工作にも慣れて、自体配線図が無くても回路図さえあれば、組み立てられる様になり、6AR5ファイナルのステレオアンプを作り、スピーカーとボックスを購入する事になり、ラジオ会館のオーディオ店を回り、コーラルの20cmのスピーカーと幅30cm縦60cmのボックを購入して、電車で町田の自宅まで持ち帰りました。さぞ電車やバスの乗客には迷惑かけたのだらうと思います。勿論一人では無理なので、恵比寿の従弟にヘルプしました。

やがて、電話級アマチア無線技士に合格するのを前提にして、送信機を作る事になりました。

送信部と変調部はリードケースのAS2を、鈴蘭堂で、電圧計と電流計はラジオデパートの計器屋で、変調トランスと電源トランスは、秋葉原の青果市場寄りにあった、トヨムラ（のちのT-ZONE）で、小物の真空管ソケットやバリコンは、ラジオストアの2階や万世ビルにあった丸善などで集めました。



なかなか一度には、集められずに何度か秋葉原通いをしました。

トヨムラの隣がロケットで、トヨムラにはコリンズやドレークなどの米国無線機やトヨムラ独自のQRP-Twentyなどが置いてあり、高級感がありました、ロケットは国産の無線機やアンテナがあり格安感がありました。ロケットが現在の様な大きな店構えになるとは、当時は思いませんでした。

50Mcの5エレ八木は当時マスプロが主力でしたが、新規参入のムデンアンテナがロケットにありました、マスプロに比べるとエレメントが細目で、格安だったので購入しました。

1970年に入り真空管からトランジスタの時代になり、無線機もHFのファイナルの真空管を除いてはトランジスタ化していきました。

自作の送信機から、メーカー製のオールトランジスタのTR-1000を巣鴨にあったハム月販から購入しました。乾電池の単一8本で移動運用をしましたが、固定で使用する為に12V出力の安定化電源を作成する為、トランジスタハンドブックを参考に、プリント基板+エッチング液、ケースにする為のシャーシをラジオストアで購入しました。

この時にトランジスタ回路製作用に高電流と直流の小電圧が測定出来る、ミラー付きの三和の高級テスターを、JR-200を購入した店で購入しました。

安定化電源を作るにあたり、プリント基板に回路パターンを作り、エッチング液で回路以外の部分を溶解していくのですが、購入したエッチング液は直ぐに無くなってしまいますので、エッチング液を作る為の酸化第二鉄をラジオデパートで

買いました。この酸化第二鉄は15・6・7年使っても無くなる事は在りませんでした。

この頃から、電波伝搬の良い、144Mhzへモバイルが盛んになり、秋葉原のハムに於いて無い店でも、モバイル機が置いてありました。



12チャンネル水晶発振のTR-7100を、ラジオ会館近くにあった、小さな店で購入しました。モバイルアンテナは、50cmの1/4λアンテナを万世橋近くの、万世橋ビルにあった、丸善で

買い、固定用のマスプロ7エレ八木とエモテータは、ロケットで買いました。固定用の安定化電源は、TR-1000用の電源では容量不足になるので、また新規で作る事になり、鈴蘭堂で真空管アンプのケース、ラジオデパートで電圧計/電流計、丸善でトランス、ラジオストアでトランジスタやダイオードを揃えました。この時に、ブリッジユニットになっている、ダイオードがあり驚きました。

電圧MAX15V 電流MAX5Aの電源で、10年位前までは正常に使用していましたが、経年劣化で、パワーTRとツェナーDIが不良になりました。トランスとブリッジユニットと電解コンデンサは50年経過しても何とか使用可能です。



電源コントロール部は秋月電子の安定化電源ユニットを使用して、FT-817の電源やバッテリーの充電器として使用しています。

秋葉原は、時代と共に変化していきます。真空管からトランジスタ、ラジオからテレビ、そしてパソコンやスマホへと変わっていきます。

それでも、ラジオデパートやラジオストアは昔と変わらず、電子部品などを扱っています。

また、ラジオデパートやラジオストア内の店名を覚えて無い事が分かりました、ラジオストア内の何番目の店とか、店構えや店主の顔で何を扱っているか覚えていた様です。

最近、なかなか秋葉原に行く機会がありませんが、秋葉原を歩いて、電子部品やジャンク部品を探していると、60年前の少年の頃に戻ってしまいます。

終わり